

放送大学通信

on air

オン・エア

no. 80

発行日 平成17年12月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111(代)

CONTENTS

仕事と生涯学習の両立 - 私の場合	1	
on air 紙面アンケートの結果について	4	
公開講演会およびオープンキャンパス開催のご案内	5	
平成18年度開設・改訂科目紹介	6	
平成18年度第1学期学部単位認定試験時間割	11	
第2学期学部単位認定試験時間割	12	
平成18年度大学院単位認定試験時間割(第1・2学期)	15	
平成18年度学部開設・改訂科目一覧	16	
平成18年度大学院開設・改訂科目一覧	18	
学習センターだより	20	
研究室だより	21	
教授 藤原康晴	教授 高木保興	
理事長退任のあいさつ	前理事長 井上孝美	22
理事長就任のあいさつ	新理事長 御手洗康	22
本学印刷教材が第22回田邊尚雄賞を受賞	23	
第19回アジア公開大学連合(AAOU)年次会議について	23	
本学の学生団体がインドネシアの大学等を訪問	23	
教務のお知らせ	24	

仕事と生涯学習の両立 - 私の場合

学ぶ楽しさ再発見、
学びに目覚めてしまった私自然の理解 萬 一豊
(平成17年3月卒業)

私は化学品メーカーに勤務する化学系技術者です。長年、製造部門で生産技術を担当していましたが、企画部門に転属となり、環境ビジネスの新規開拓を担当することになったのをきっかけに、環境関連の知識をより深めたいとの思いから、放送大学への入学を決めました。放送授業期間中は週4回、帰宅後

に録画を見ながらの孤独な学習が続き、投げ出しそうになることもありましたが、20年ぶりの学生生活は刺激的で、「学び」本来の楽しさを再発見しました。

上司や同僚から「よく続くなあ」と声をかけてもらうこともあります。本人はいたって楽しみながらやっています。どちらかという仕事のストレスを学ぶことで癒しているといった

感じます。3月に学部を卒業した後、大学評価・学位授与機構の学位授与試験に挑戦し、念願の学士(工学)を取得しました。

現在、大学院の修士選科生に在学中ですが、この号が出る頃には修士全科生への入学が決まっている？はず。入学出来たら、修士全科生の皆様よろしくお願ひします。



趣味と実益を兼ねた学習でココロ軽く...

社会と経済 牟田 静香

ジェンダーに関する勉強がしたくて放送大学に入学したのが4年前...。社会学系の授業を受けることで目からウロコの日々が続き、ジェンダーと日々戦っている私にとって放送大学で学ぶことは即自分自身の生き方を問い直す場となりました。特に面接授業で受けた女性学の加藤千恵先生の講義が私の中で大きな転機とな

ったのです。おかげで今は東京都大田区にある男女平等推進センター「エセナおおた」の職員として働いています。そして今年の春、念願だった加藤先生にうちのセンターの講師として来ていただけたのです。ジェンダーの意味は知っていても言葉を知らない子育て中のママたちのココロを少しでも軽くするべく女性学の講義をしていただき大変好評でした。今では「行列の

できる講座を企画することが出来るセンター」として全国的に有名になったのです。それは一重に放送大学で理論を学び、職場で実践した結果だと思っています。その経験を基に卒業研究を行っており、まさに趣味と実益を兼ねた研究で楽しく学んでいます。それにしても放送大学の授業の深さと講師の豊富さには脱帽です、恐るべし放送大学...



仕事と生涯学習 学びは私のインプット

発達と教育 稲田 明日香

患者の言葉をきっかけに、人間の心に集会的無意識の領域を発見したユングのエピソードに出会って以来、心のことをもっとちゃんと考えたいという志を抱いたのは10年前のことだった。その後結婚して子どもが生まれ、家庭と仕事の両立に忙しい日々の中、やはり勉強への志を捨て

きれず放送大学に出会ったのが5年前。そして今、ようやく卒業研究に漕ぎつけた。家庭、仕事、プラス勉強。一日24時間はあっという間に過ぎていく。実際に勉強ができるのは、家族が起き出す前のひとときや通勤電車の中くらいのもので、時間配分にすれば4:5:1。しかし、この1割の時間が私にはとても重要であるらしく、ここをゼロにしてい

まうと、なぜか途端に居心地が悪くなってしまう。おそらく私は、家庭・仕事・学び、この3つをこなすことで心のバランスをとっているのかもしれない。わずかに1割されど1割の学びの時間を、生涯絶やすことなく積み重ねていきたい。

最後に、学びの機会を与えてくれる放送大学に心から感謝いたします。



働く事の意味を考える

生活と福祉 奈良 玲子

「仕事に行く必要が無く、卒業研究に専念出来たらどんなに良いだろう。」「勉強だけに専念出来た学生時代にどうしてもっと真摯に勉強に取り組めなかったのだろう。」「私の後悔とも現実ともいえる自問自答である。いち社会人として社会に貢献し、いち個人として給与を取得し、或いは家庭を守る仕事を担っている社会人学生であればこのような問題に直面するのは決して珍しくないであろう。

それでは、何故、一旦、学生生活に終止符を打ち、社会人として独り立ちをしていた私が、再び、放送大学にて学ぶ事への意欲を募らせたのか。それは学生時代の勉学の不十分さを補う為ではなかった筈である。今、思えば「働く事の意味」を模索し始めていた頃だったのでないだろうか。

どんな仕事でもそうであろう。長く勤めているとどうしても全てが機械的になって行くものである。働き始めた頃の緊張感は一次第に薄れて行き、業務上の一

つ一つの行為が日常の一部になっていくのである。一方では、昇進の機会を得て、新たな責任を担う事もあるであろう。また、想像も付かなかった事態に悩まされたりする事も然りである。

「仕事」を通して学ぶ事の必要性、意義深さを知り、「学習」を通して働く事の大切さを考える。「仕事と生涯学習」一見、マッチしない組み合わせのようにも見えるが、今の私にとっては切っても切り離せない文字通り「生涯をかけての課題」である。



生涯学習は私のもう一つの顔

自然の理解 坂尾 祥文

私は物理の理論が数学で記述できることが面白いと思いながら、放送大学で数学と物理の勉強してきました。今後は、さらに発展した数学や物理とのつながりを意識しながら、数学の勉強をし

ていきたいと思っています。私の仕事と生涯学習は直接的な接点はありません。私は普段、毎日勤め先で職務に従事することで社会人生活を送っています。私にとって生涯学習は自分の興味ある分野で自分で決めたことに自分のペースで出来るだけの

思いをこめてライフワークとなるテーマを設定して取り組むことです。ですから生涯学習は私にとって、もう一つの顔ということになるような気がします。

生涯学習に定年はありません。生涯学習はもう一つの顔として、自分を支え続けたいと思います。

新しい紙面づくりをめざして

大学通信専門委員会委員長 杉本 大一郎

学生の方々にも参加していた「on air」が皆さんにとってより身近な存在となるようにしばらくこの種の欄を設けていくことにしました。差し当たりは、毎回テーマを決めて、専攻や学習センターから執筆者を推薦してもらい、それぞれの方に副題をつけて書いていただくことにします。今後、取り上げて欲しいテーマがあれば、専門委員会へご意見をお寄せください。

放送大学では通信教育という

性格のために、学生間コミュニケーションが取りにくいということがあります。いっぽう生涯学習という性格上、多様な学生が参加しています。世代、人生経験、仕事、立場から、価値観や世界観にまでわたるこの多様性を生かさない手はありません。面接授業に人気があるのも、その機会が求められているからでしょう。

本紙は10万人の学生にとってのコミュニケーションの場とな

るよう、これからも努めて行きます。もちろんいろいろな意見が述べられるでしょう。賛成できるもの、反対したくなるものも出るでしょう。古い日本での価値観を別とすれば、「各人の間で意見は異なるのが正常な状態」です。それらの多様な意見をおして自己を見つめ直し、新たな自分と出会ってください。なお、専門委員会は投稿原稿を原則として原文のまま掲載します。



生活に潤い

人間の探究 平 由喜子

現在、中学校の教員として忙しい毎日を送っています。しかし、放送大学のテキストを手に取り、好きな学習をする時は、仕事から解放され自分を取り戻すことができます。週末を待ちかね、近くの多摩学習センターに出かけます。広いキャンパスの中に建つ新しい建物で、職員の方々も

とても親切です。センターでは放送授業の視聴や面接授業の他に、同好の学生さん達と、先生を囲んで行う学習会などもあります。私は現在、岡倉天心著の“The Book of Tea”の原文の勉強会に参加しています。大橋理枝先生を囲み、千葉と多摩学習センター（あるいは自宅）をテレビでつないで行っている新しい試みです。最初は

旅行好きから軽い気持ちで始めた英語学習だったのですが、放送大学で学ぶことにより、外国語学習の姿勢を問い直された思いです。

興味の赴くままに学んだ様々なことも、そのまま明日からの自分の仕事に生かせるという利点もあり、これからも放送大学での幅広い学習を楽しんで継続していきたいと思っています。

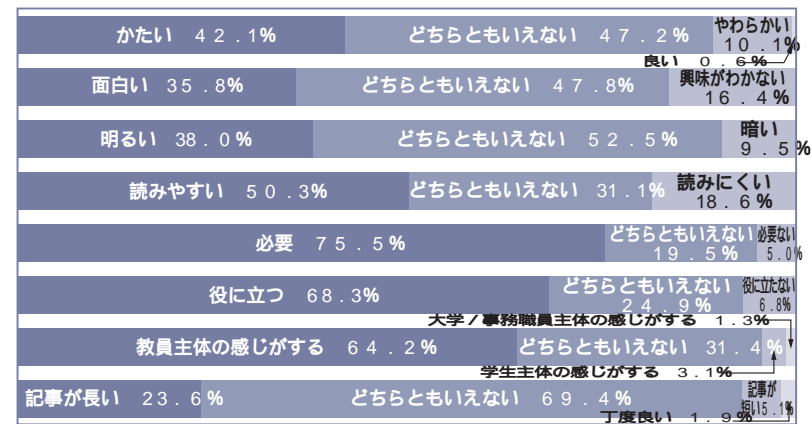
on air 紙面アンケートの結果について

放送大学通信 on air 79号において、皆様のご意見を頂戴すべく、アンケート調査を行いました。10月4日現在で164名の方から回答を頂きました。貴重なお時間を割いてアンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。

回答を寄せて頂いた方々の内訳は、以下の通りです。

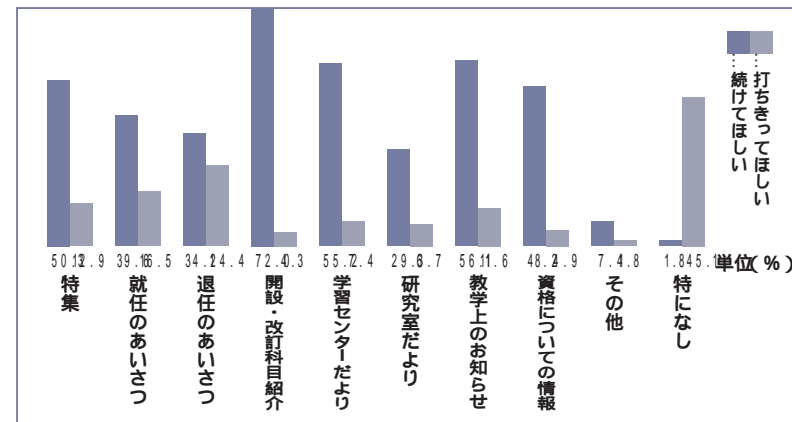
- 男女比：男性53% 女性43% 無回答4%
- 年齢構成：20代3% 30代18% 40代15% 50代19% 60代27% 70代以上16% 無回答：2%
- 立場：学生98% 専任教員1% その他1%
- 学生種別：学部全科目生61% 学部選科生・学部科目生・学部特別聴講生18% 修士全科目生3%
- 修士選科生・修士科目生13% 複数回答5%
- 学部全科目生所属専攻：生活と福祉20% 発達と教育25% 社会と経済9% 産業と技術8% 人間の探究23%
- 自然の理解13% 複数回答1% 無回答1%

on air のイメージ



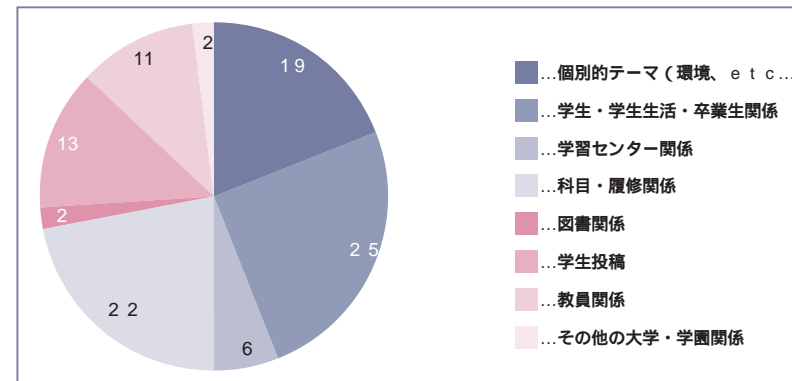
各項目について、「どちらともいえない」を除いたイメージ像は、かたい - 面白い - 明るい - 読みやすい - 必要 - 役に立つ - 教員主体 - 記事が長い、というのが読者の方々のご感想のようです。記事がかたいという点と、教員主体の感じがするという点につきましては、今後専門委員会でも検討していきたいと思っております。

続けてほしい記事、打ち切してほしい記事



最も存続要望の多かった記事は開設・改訂科目紹介であることが分かりました。他にも、教学上のお知らせ、学習センターだより、特集などが人気の高い記事といえそうです。逆に打ち切りの要望が一番高かったのは就任・退任のあいさつでした。教員である私としては、少し寂しい感じがします。

今後新たに上げてほしい記事の内容



「今後新たに上げてほしいと思う記事や内容」の部分に書かれていた回答を分類し、集計した上でそれらの割合を算出しました。その結果、学生生活や卒業生に関する記事の掲載要望が最も高いことが分かりました。また、科目に関する内容や履修に関する内容の要望も高いことが分かりました。専門委員会としてもなるべくご要望を取り入れていくよう努力します。

皆様から頂いたご意見を参考に、今後より良い紙面を作るべく、委員一同努力して参ります。今後とも何卒 on air をよろしくお願い申し上げます。(平成17年度 大学通信専門委員会委員 大橋理枝)

平成18年1月から3月までに開催の公開講演会及びオープンキャンパス開催のご案内

放送大学の各学習センターでは、学生に限らず広く地域の方々への生涯学習を支援するため、公開講演会を開催しています。また各学習センターにおいてはオープンキャンパス(体験入学)を実施しておりますので、放送大学に関心をお持ちのお友達をお誘いくださるようお願いいたします。このオープンキャンパスは、実施予定一覧以外にも各学習センターにおいて随時実施されていますので、最寄りの学習センターにお問い合わせください。なお公開講演会及びオープンキャンパスの一覧については放送大学のホームページに掲載していますのでご覧ください。公開講演会並びにオープンキャンパスの申込などの詳細については、実施する各学習センターにお問い合わせください。

オープンキャンパス実施予定一覧(平成18年1月~3月)

学習センター名	実施予定日	会場	学習センター名	実施予定日	場所	
宮城学習センター	1月15日(日)	宮城学習センター	福井学習センター	2月11日(土)	福井県立図書館	
山形学習センター	1月21日(土)	山形学習センター	長野学習センター	2月4日(土)	長野学習センター	
	2月3日(金)	山形学習センター		2月5日(日)	長野学習センター	
	3月4日(土)	山形学習センター	岐阜学習センター	1月21日(土)	岐阜県ふれあい会館	
	3月11日(土)	山形学習センター		2月25日(土)	岐阜県ふれあい会館	
茨城学習センター	1月14日(土)	茨城県立図書館	愛知学習センター	2月5日(日)	愛知学習センター	
	2月18日(土)	茨城県立図書館	三重学習センター	1月14日(土)	三重県生涯学習センター	
	3月11日(土)	茨城県立図書館		2月4日(土)	三重県生涯学習センター	
栃木学習センター	1月14日(土)	栃木学習センター	兵庫学習センター	2月4日(土)	兵庫学習センター	
群馬学習センター	1月21日(土)	群馬県立図書館		2月5日(日)	兵庫学習センター	
	1月22日(日)	群馬県立図書館		姫路サテライトスペース	1月14日(土)	姫路サテライトスペース
	2月4日(土)	松井田町文化会館			2月12日(日)	姫路サテライトスペース
	2月5日(日)	松井田町文化会館	高知学習センター	1月15日(日)	高知学習センター	
2月19日(日)	富岡市生涯学習センター	熊本学習センター		1月17日(火)	熊本学習センター	
2月26日(日)	大間々町ながめ余興場		1月18日(水)	熊本学習センター		
千葉学習センター	2月4日(土)	千葉学習センター	1月19日(木)	熊本学習センター		
	2月5日(日)	千葉学習センター	1月20日(金)	熊本学習センター		
新潟学習センター	1月14日(土)	新潟学習センター	1月21日(土)	熊本学習センター		
	1月18日(水)	新潟学習センター	1月22日(日)	熊本学習センター		
富山学習センター	1月14日(土)	富山学習センター				
	1月15日(日)	射水市中央図書館				

公開講演会実施予定一覧(平成18年1月~3月)

学習センター名	実施予定日	会場	定員	講師名	題目
青森学習センター	2月18日(土)	青森学習センター講義室	40	牧田肇(弘前大学教授)	未定
茨城学習センター	1月14日(土)	茨城県立図書館視聴覚ホール	200	塩見正衛(所長)	日本の草原、世界の草原
	2月18日(土)	茨城県立図書館視聴覚ホール	200	鈴木暎一(客員教授)	徳川光圀と「大日本史」
	3月11日(土)	茨城県立図書館視聴覚ホール	200	飯塚和之(客員教授)	カップルと民法 - 出会いから別れまで -
栃木学習センター	1月7日(土)	栃木学習センター	100	黒澤孝夫(新潟学習センター所長)	日々生きるということ 晩年の正岡子規
群馬学習センター	1月14日(土)	群馬学習センター	40	野田岳人(群馬大学助教授)	バルト三国 - 民族と歴史 -
	2月18日(土)	群馬学習センター	40	瀧上昭治(群馬大学助教授)	コンニャクの科学
	2月19日(日)	富岡市生涯学習センター	548	吉岡一男(放送大学助教授)	太陽系外惑星と生命の探査
千葉学習センター	1月11日(水)	千葉県生涯大学校	179	坂井素思(助教授)	「経済学：時事解説」
	2月1日(水)	千葉県生涯大学校	145	坂井素思(助教授)	「経済学：時事解説」
東京世田谷学習センター	1月24日(火)	世田谷区民会館	240	渡辺保(教授)	「古典劇から現代劇」(能、狂言からミュージカルまで)
東京多摩学習センター	1月14日(土)	東京多摩学習センター4階大講義室	200	山本和彦(客員教授)	「民事裁判の将来」
富山学習センター	1月14日(土)	富山学習センター	50	盛永審一郎(客員教授)	戦争の罪 - アイヒマン裁判を通じて -
			50	小谷伸男(所長)	パレスチナ・イスラエル問題の原点 放送大学のテレビ講義を活用して
	1月15日(日)	射水市中央図書館	50	荻原洋(客員助教授)	<英語を学ぶ>ということ - 民族の言葉から世界共通語へ -
石川学習センター	2月4日(土)	野々市町情報交流館ホール楯	200	高橋和夫(助教授)	未定
			60	松木健一(福井大学教授)	未定(心理学分野)
福井学習センター	2月11日(土)	福井県立図書館講義室	60	松木健一(福井大学教授)	未定(心理学分野)
長野学習センター	1月14日(土)	長野学習センター	50	田中聖(客員教授)	憲法改正問題の行方
岐阜学習センター	3月11日(土)	岐阜県民ふれあい会館研修室	80	関根清(客員教授)	未定
三重学習センター	2月4日(土)	三重県生涯学習センター視聴覚室	60	橘昌司(客員教授)	ポリミアンと植物生産
滋賀学習センター	1月14日(土)	大津市生涯学習センター	150	高谷好一(客員教授)	近江学(仮題)
鳥取学習センター	1月18日(水)	鳥取学習センター	40	高階勝義(客員教授)	精神と世界 - 意識の志向性の現象学的考察(2)-
高知学習センター	1月15日(日)	高知学習センター	40	根小田渡(高知大学教授)	イラク問題と今後の日本の政治情勢
佐賀学習センター	1月14日(土)	アバンセ(語学研修室)	30	宇野光次(本学大学院生)	長崎街道を活かしたまちづくり - 奮戦記 -

日本語学概説 (06) 母語のすがた

我々が日常に主たる言語として使っていることばを「母語」という。日々慣れ親しんで使っているのに、母語を意識するという事はほとんど無い。また何らかのきっかけで改めて意識しようとしても、あまりに日常的すぎて、どこから考えればいいのか、ということさえわからないこともある。

我々の中にあつて、普段は意識されない母語を、改めて見つめ直してみよう、というのがこの講義のねらいである。これを日本語を母語とする者のための日本語学、と位置づけ、ことばの外形とことばを使う上での心の動きの二つの視点から、自らの中にある自らの

ことばを探って行く。将来、日本語あるいは日本の言語文化を専門的に勉強しようとする方々だけでなく、直接・間接に関わる様々な分野を学ぶ際にも、この講義で示した、意識していないものを改めて意識してみるための考え方や手法は、きっと役立つのではないかと、という期待もある。

そこで、放送教材・印刷教材では、なるべく専門的な用語を避け、平易なことばを用いて、考え方や手法の解説を中心に据える構成としている。日本語に限らず語学の概説というと、難解かつ複雑な文法用語などにきゅうきゅうとすることがしばしばであるが、いささ

人間の探究 助教授 杉浦 克己

かなりともそれは軽減されているかも知れない。ただその分、より鋭い目で自らの中にある自らのことばを見つめてもらいたい。



自然の理解 教授 熊原 啓作
福岡学習センター所長 押川 元重

初歩からの微積分 (06)

それぞれの分野の多くの専門家から、放送大学授業科目の内容が優れていることの指摘をいただいています。しかし、理解しやすくなっているかという点から見ると疑問です。最近は高校教育も多様化していますので、科目があるからといってすべての高校生が勉強しているわけではありません。放送大学の学生の中には長いブランクを経て勉強を始めた人もいますのでなおさらです。

微分積分の議論はさまざまな分野の学問の中で顔を出すようになっていますが、微分積分を高校で勉強しているのは、わずかな割合の高校生に過ぎません。今回、放送授業科目「初歩からの微積分」を熊原啓作教授と二人で担当する

ことにしたのは、高校で微積分を学んでいない人でも勉強できる微積分の科目が必要だという思いがあったからです。高校の微積分の単なる繰り返しではなく、あくまで大学の微積分を目標としましたし、数学の概念や記号を理解し使える能力のほか、数学ならではの論理を理解するという目標も軽視しないように心がけました。一つの試みとして、各回の放送授業では、その回の学習の要点を確認するための演習問題を設けました。授業番組の収録はほとんど

終わりに近くなりましたが、放送授業を初めて担当した私にとっては、内容と教育方法の両方について、ああすれば良かった、こうすれば良かったという反省点が少なくありません。(押川記)



熊原啓作 教授



押川元重 所長

大陸を東から西へ、再び東へ 「初歩のアラビア語 (06)」の開講によせて

ユーラシアの東の果て、この日本から、西に向かって「言語」の旅に出てみましょう。

海を渡るとすぐに出会うのは、韓国語や中国語を話す人々です。これを過ぎるとしばらくはモンゴル系やトルコ系の言語を話す人々が暮らす草原の道ですが、その北にはロシア語をはじめとするスラブ系の言語の世界が、はるか西方まで続いています。そのスラブ系言語がようやく途切れると、今度はドイツ語・英語といったゲルマン系言語やフランス語・スペイン語などのイタリック系言語の世界が広がります。そのうちのいくつかは、いわゆる新大陸へも連なっています。

いま具体的に名前を挙げた言語

は、いずれも放送大学で外国語科目として開設されているものですし、日本の他の大学でも状況はだいたい同じように思われます。このことは、近代以降の日本人が世界をいかに捉えようとしたか、少なくともその一つの方向性を示しています。

でも、ちょっと待ってください。私たちが辿った道のり、少し大陸の北にかたよってはいませんでしたか。もし、もう少し道を南にとると、自ずとまた違った風景が見えてくるはずで、言語が複雑に交錯する東南アジアからインド・イラン系言語の世界。そしてアラビア語を「コーランの言葉」として戴くイスラム世界から、さらにはアフリカの諸言語の世界へ

と。語学の学習は、何もその言語が話せるようになるためだけにあるものではありません。自分たちの言語以外で書かれたものを読み、話すことによって、その言語を操る人々の考え方やその背後にあるものを、自らのそれと引き比べながら読み解いていく作業です。鷲見朗子先生を主任講師として来年4月から新たに始まる「初歩のアラビア語」は、これまでにない新たな可能性を皆さんに与えてくれるに違いありません。

けれども旅は片道切符ではありません。西へと旅を続けた私たちは、どこかで今度は東へと旅することを決意するでしょう。私たち自身を確かめるために。

(人間の探究 助教授 宮本 徹)

食と健康 (06) 食品の成分と機能

我が国の平均寿命は世界に類を見ない速度で伸び、最長寿国の一つになった。これは医療技術や科学技術の進歩、経済的発展に伴い食生活をはじめ国民の生活環境の改善が大いに寄与していると考えられる。高齢社会において死亡率の高いがん、心臓病、脳卒中に加えて高血圧症、糖尿病、肥満などの加齢に伴って発症する疾病が高齢者のみならず若年層にまで増えつつある。これらの疾病は食習慣、運動習慣、喫煙などの生活習慣に起因するものとして、生活習慣病と呼ばれている。このような社会的背景から従来にもまして健康への関心が極めて高まって

いる。本講義は食による健康の維持・増進を目指して食品の成分の化学と機能について解説する。具体的には食品の機能(はたらき)すなわち、栄養機能、嗜好性に関わる機能、生体調節機能について述べ、それらに関わる食品成分の基本的知識の理解を深める。消化系、代謝系、循環系、免疫系における生体機能のメカニズムと食品成分による調節、

生活と福祉 教授 中谷延二
東京大学大学院 教授 清水 誠
(放送大学客員教授)
奈良女子大学 教授 小城勝相
(放送大学客員教授)

その作用機構を解説する。さらにアレルギー、がん、動脈硬化、糖尿病などの発症を抑制し、予防が期待される食品成分の基礎的探索研究を紹介し、機能成分を含む新しい食品(機能性食品)から特定保健用食品の創出などに論及する。本講義の受講とあわせて化学、生化学の勉強もしていただきたい。



中谷延二 教授



清水誠 教授



小城勝相 教授

現代コミュニティ論 (06)

いま、都市化、少子・高齢化、グローバル化、情報化など、社会の大きな変化が生じています。その中で私たちの身近なコミュニティはどのように変化・変貌を遂げつつあるのでしょうか。この科目はこのようなことを具体的、現実的に考えていきます。

この現代コミュニティ論(06)では、とくに、コミュニティの概念について、これまでの研究者の見解を検討しながら、コミュニティの社会構造、社会関係、社会的相互作用、そして、町内会などの住民組織の現状を分析し、また、人々のコミュニティ・イメージやコミュニティ意識、そして、コミュニティ文化のあり方について具体的に明らかにしていきます。

そして、その上で、CATVな

どのコミュニティ・メディアを取り上げ、その現実と問題点を検討しますとともに、コミュニティにおける日常的なコミュニケーションや災害時のコミュニケーションがどのような形においてなされているのかを解明いたします。

さらにまた、情報化の進展に伴ない、新たに生み出されてきております「情報コミュニティ」のあり方について、その意義と課題を明確化し、「地域コミュニティ」との関連について考察いたします。

このように、この科目では、現代のコミュニティの

社会と経済 教授 船津 衛
社会と経済 助教授 浅川 達人

変化・変容の様相を明らかにしながら、コミュニティの活性化の条件と21世紀のコミュニティのあるべき姿を探っていき、そこから、新しいコミュニティ論を構築していくことを目指しております。



船津衛 教授 浅川達人 助教授

21世紀の女性と仕事 (06)

我が国の「女性と仕事」について、主に経済、経営、法律の面から講義を行う。「女性の社会進出が進んだ」といわれて久しい。全労働者に占めるサラリーマン、サラリーウーマン比率は共に8割に達しており、今日の日本では、最も一般的な働き方であろう。したがって、この科目では組織(主に企業)とそこに雇われている女性の関係に焦点を当てて学習を進める。

近年、経済の国際化、サービス化が著しく進展した。まず、日本経済の変化について広い視点から理解を深める必要がある。また、正社員による「典型労働」に対して「非典型労働」といわれるパート・アルバイト、派遣、契約等の

多様な働き方が生み出されてきた。このような変化に女性や企業はどう対応しているのか。パートの戦力化、コース別人事管理(総合職と一般職等のコース管理)の実態はどうか。また、女性が結婚しても就業を続けるようになれば、社会の仕組みもそれに合わせて変わらざるをえない。たとえば、職場での男女の平等な扱いに対してどのような法制度があるのか。このような問いを解説する。

また、結婚や育児により仕事を中断する女性がいる

日本女子大学 教授 大沢 真知子
(放送大学客員教授)
産業と技術 助教授 原田 順子

一方で、晩婚化も進展している。女性の所得の向上や多様な働き方の進展が、女性の生き方や「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と私生活の両立)とどう関連するのか。デンマーク、オランダ等の例も紹介しながら考えて行きたい。



大沢真知子 教授 原田順子 助教授

EU論 (06)

ヨーロッパを統合するという考えは、19世紀以来、多くの人々の夢であった。フランスの詩人ヴィクトル・ユゴーは、人道的理念から平和的な「ヨーロッパ合衆国」を構想した。しかし現実のヨーロッパは、フランスとドイツの確執を主な原因として、19世紀後半から20世紀にかけて三度の戦争を経験した。EU・ヨーロッパ連合(その前身のEC)は、こうした悲惨な過去を二度と繰り返さないために、国境を超えた統合をめざして

設立されたのである。

大学院の授業科目「EU論(06)」では、こうした統合の歴史を丹念にたどり、現状の分析をこころみ、さらに今後の行方について、政治学、経済学、法学、国際関係論、社会学、文化論などのアプローチを通して、多面的



柏倉康夫 副学長 植田隆子 教授 小川栄治 教授

に考察を加える。三人の主任講師をはじめ講師陣はEUに関する各分野の専門家であり、授業を通してEUという壮大な実験の全貌を学ぶことができる。

放送大学 副学長 柏倉 康夫
(総合文化プログラム文化情報科学群)
国際基督教大学教授 植田 隆子
(放送大学客員教授)
一橋大学大学院教授 小川 栄治
(放送大学客員教授)

都市デザイン論 (06)

「都市デザイン論(06)」は、「都市計画論(02)」を改訂するものですが、私達の生活する都市をどのようにつくるのか、すなわちデザインするのか、という問題に焦点をしばって、内容を一新したいと思います。

私達の住む日本の都市は、近代化し便利で効率の良いものになったかもしれませんが、一方で混乱し、安らぎのない、騒がしいものになってしまいました。都市を囲み包む野山や水辺も、コンクリートやアスファルトで覆われ、殺伐としたものになってしまいました。こんなことではいけない、なんとかしなければいけない、今多くの人々がそう考えていること

が、全国各地で急速に広まりつつある、まちづくり、環境保全、まちなみの保存再生、といった様々な市民運動に示されています。

都市と、それをつくり上げている建築は、ただ便利、効率のためにある単なる道具ではありません。道具なら、役に立たなくなったら使い捨ててもいいでしょう。しかし、都市とは、そういうものではありません。都市とは、私達の日常の生活を支え、社会の秩序を守り、共同体を育んでいくものです。都市とは、従って、私達の共同体の基盤であり、枠組みであり、その安定した持続性が失われるならば、私達の生活そのものが不安定なものとなります。

私達は、どのような都市を求めているのでしょうか。それは、いかにして実現できるのでしょうか。そうした問題を、建築家、都市計画家といった専門家だけでなく、多くの市民と一緒に、具体的に考えていきたいと思っています。



政策経営プログラム 教授 香山 壽夫

人間情報科学と eラーニング (06)

早稲田大学 教授
(放送大学客員教授)

野嶋 栄一郎

岩手県立大学 教授
(放送大学客員教授)

鈴木 克明

メディア教育開発センター 教授
(放送大学客員教授)

吉田 文

10 高等教育の質を高次なものにする必要性は急速に高まっています。全ての評価が世界水準で語られる時代がすぐそこに来ています。各国と頻繁にコミュニケーションすることによって研究水準を維持し、互いの理解の度合いを高めていくことが必須事項として求められています。これを教育の側から考えると、大きく教育課題が変わりつつあることを認めざるを得ません。私たちは、外国人とのコミュニケーションが苦手なことを、日本の地理的なハンディキャップのせいばかりに出来ない状況にきています。国内、国外を問わず、コミュニケーションを介して共同作業をしたり、問題解決をしたり

する能力が、特別な人ではなく、ごく普通の人にも求められる時代になってきています。コミュニケーションに関わる教育環境を変えねばならない状況は身近に迫っているのです。インターネットに代表される技術革新を教育革新に変える必要性は自明の事柄です。

この科目では、情報コミュニケーション技術を取り込んで、教育革新に取り組んでいる先駆的な事例をいくつか紹介することに努め

ます。eラーニングと呼ばれる学習形態は、このような類の教育革新の典型例です。この科目では日本におけるeラーニングの現状を紹介しつつ、それらを現実のものとするために必要な、技術革新と教育革新をつなぐ、境界領域の科学、“人間情報科学”について解説していきたいと思ひます。



野嶋栄一郎 教授



鈴木克明 教授



吉田文 教授

家族心理学特論 (06)

新潟大学 教授
(放送大学客員教授)

横山 知行

臨床心理プログラム 助教授

佐藤 仁美

今、家族とは...

近年の少子高齢化社会、高度情報化社会の中で、私たちがとりまく社会環境は大きな変貌を遂げようとしています。こうした時代背景の中で、現代の家族には、これまでにない新たな課題が生まれてきています。その一方で、いかなる時代、文化においても、普遍的な課題もあります。

「家族心理学特論(06)」では、まず今日の家族が抱えるさまざまな課題について検討し、次にこの課題を果たせなかった場合に生じる諸問題について取り上げることとしています。そして、このような諸問題に対する援助の方法に

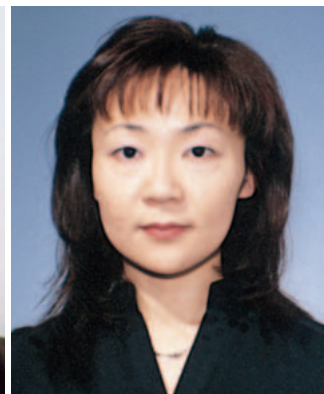
ついて、臨床の実際にふれつつ講じていきたいと思っております。

主任講師の二人に加え、第一線でご活躍の多才で多彩な分担講師五人が登場します。各人各様の家族療法・個人療法の専門家が、それぞれの立場から臨床現場での実際・研究の最前線を語り、コラボレートしていきます。ひとつの理論に片寄らず、多面的に、柔軟に視野を拡げていただけたらと思ひます。さて、あらためて、

家族とは...と一緒に考えて行きましょう。



横山知行 教授



佐藤仁美 助教授

平成18年度第1学期

学部単位認定試験時間割

曜日 時限	平成18年 7月22日(土)	平成18年 7月23日(日)	7月24日(月)	平成18年 7月25日(火)	平成18年 7月26日(水)	7月27日(木)	平成18年 7月28日(金)	平成18年 7月29日(土)
1 9:15 ~ 10:05	変化する地球環境(04) 実験科学とその方法(06) 生活の経済(04) マスメディア論(03) 物質の科学・量子化学(03) 〔実験科学の方法(02)〕	現代社会におけるライフコース(03) 患者からみた医療(03) 経営工学総論(04) 流体的地球像(03)		人体の構造と機能(05) 計算科学(03) 地域福祉論(06) 人間活動の環境影響(05) 〔地域福祉論(03)〕	統計学入門(04) 基礎発達心理学(06) 環境社会学(02) 仏教の思想(05) ヨーロッパの歴史(05) 博物館経営・情報論(04) イギリス文学(03) 〔老年期の心理と病理(02)〕		現代思想の地平(05) 生涯学習と自己実現(06) 日本の古典・古代編(05) ドイツの言語文化(02) 自己を見つめる(02) 情報と社会(06) 〔生涯学習と自己実現(02)〕	政治学入門(03) 財政学(05) 日本の古典・散文編(06) 前近代の東南アジア(06) 芸術の理論と歴史(06) 〔日本の散文・古典編(03)〕 〔東南アジアの歴史(02)〕 〔芸術の理論と歴史(02)〕
2 10:25 ~ 11:15	宇宙とその歴史(04) 東アジア・東南アジアの住文化(03) リハビリテーション(03) 産業と労使(03) 持続的発展と国際協力(03) 情報技術と社会(05) 量子力学(05)	物理の世界(03) 世界の食糧問題とフードシステム(03) 簿記入門(06) 都市システム工学(03) 多変数の微積分(03) 光と電磁場(05) 〔簿記入門(02)〕		疾病の成立と回復促進(05) 若者の科学離れを考える(04) 21世紀の女性と仕事(06) ネットワーク産業論(04) 天体物理学入門(03) 〔技術の分析と創造(02)〕	社会調査(05) カウンセリング概論(05) 経済法(04) 現代東アジアの政治(04) 応用音楽学と民族音楽学(04)		近代哲学の射程(03) 家庭・学校と地域社会(04) 経済学とテクノロジー(03) 裁判の法と手続(04) ヨーロッパ政治史(05) 東アジアの中の中国史(03) 〔フランスの言語文化(02)〕	発達と教育の心理学的基盤(05) 子ども・青年の生活と発達(06) 欧米経済史(04) フィールド社会心理学(04) 朱子学と陽明学(04) 中世日本の歴史(03) 演劇入門(06) 〔生涯発達心理学(02)〕 〔現代における伝統演劇(02)〕
3 11:35 ~ 12:25	宇宙像の変遷と科学(04) 脳科学の進歩(06) 会計学(04) 日本の製造業の新展開(05) 計算力学(04) 数理モデルとカオス(05) 生命と金属の世界(05) 〔脳の健康科学(02)〕	確率・統計の基礎(05) 都市と人間(03) 企業ファイナンス入門(04) 統計学とその応用(05) 動物の行動と生態(04)		看護学概論(05) 高齢者福祉論(03) イノベーション経営(05) 数学とコンピュータ(06) 物質の科学・反応と物性(04) 〔数学とコンピュータ(03)〕	人文地理学(04) 日本国憲法(05) 近代的教育思想(03) 心理臨床の世界(03) ヘーゲルを読む(03) 日本の古代(05) 中世日本の物語と絵画(04)		著作権法概論(06) 近代詩歌の歴史(04) 教育の方法(04) 応用心理学(05) 比較政治学(04) 科学の哲学(04) 博物館概論(03) 中国の言語文化(02) 〔現代社会と著作権(02)〕	生命と人生の倫理(05) 表象としての日本(04) 教育の社会文化史(04) 幼児の教育と保育(04) 産業社会と消費社会の現代(03) 自我の社会学(05) 日本の古典・江戸文学編(06) 近世日本の歴史(03) 〔近世の日本文学(03)〕
4 13:15 ~ 14:05	英語(03) ドイツ語入門(06) フランス語入門(06) ロシア語入門(05) 韓国語入門(06) 日本語(03) - 外国語としての - 保健体育(05) 在宅看護論(04) 〔ドイツ語(02)〕 〔フランス語(02)〕 〔韓国語(02)〕	国際経営論(05) 生物学の歴史(05) 日本の食文化(04) 生活の動態と経営(05) マーケティング論(04) 進化する宇宙(05)	休	基礎生物学(03) 使える数値リテラシー(03) 公衆衛生(05) エネルギー工学と社会(06) 〔エネルギー工学と社会(03)〕	東アジアのなかの日本文化(05) 計量心理学(06) スクールカウンセリング(05) 中央アジアの歴史・社会・文化(04) 文化人類学(04) 〔乳幼児心理学(02)〕	休	21世紀の社会学(05) 世界の産業再編成(04) 臨床心理学概論(03) 日本政治思想史(05) 上代の日本文学(04) 古代地中海世界の歴史(04) 20世紀の中国文学(05)	英語(03) 英語中級B(06) 英語総合A(05) ドイツ語入門(06) フランス語基礎(06) 中国語入門(05) 韓国語入門(06) 〔英語(02)〕 〔ドイツ語(02)〕 〔フランス語(02)〕 〔韓国語(02)〕
5 14:25 ~ 15:15	英語(03) フランス語入門(06) 中国語入門(05) スペイン語(03) 日本語基礎A(06) 基礎看護学(04) 〔フランス語(02)〕 〔日本語(02) - 外国語としての - 〕	人口減少社会の生活像(06) 科学・技術と社会(03) 日本法文化の形成(03) 食品の安全性を考えろ(06) 暮らしの防犯と防災(06) 情報産業論(04) 物質の科学・有機化学(06) 〔持続可能な消費と生活者(03)〕 〔住計画論(02)〕 〔物質の科学・有機高分子(02)〕	日	数学の歴史(03) 中小企業の挑戦(03) 感染症と生体防衛(04) ベンチャー企業論(05) 現象の数値(03) 日本列島の地球科学(03)	心の科学(04) 国文学入門(04) 学習科学(04) 道徳教育論(05) 都市社会の人間関係(04) 書誌学(03) アメリカの歴史(04) 西洋音楽の諸問題(05)	日	近代日本における外国文学の受容(03) 教育社会学(03) 心理学研究法(03) 刑法(05) 現代日本の政治(03) 芸術・文化・社会(06) 〔芸術・文化・社会(03)〕 〔自然と文化の記号論(02)〕	英語基礎A(05) ドイツ語基礎(06) 中国語(04) ロシア語入門(05) スペイン語(03) 初歩のアラビア語(06) 〔ドイツ語(02)〕
6 15:35 ~ 16:25	ゲノム生物学(03) 家族のストレスとサポート(04) 光電子技術とIT社会(04) 数学基礎論(03) エネルギーと熱(03) 生物界の変遷(06) 〔多様性の生物学(03)〕	社会福祉入門(04) 物質の科学と先端技術(04) 服飾と心理(05) 社会保険と市民生活(04) 人間と自然(03)		身体福祉論(03) 食と健康(06) 線型代数(04) 物性物理学入門(04) 公的扶助(02) 〔食品の成分と機能(03)〕	アーツ・マネジメント(06) 人格心理学(04) 現象学と教育(04) 日本語の歴史(05) 考古学と歴史(04) 〔アーツ・マネジメント(02)〕		日本語学概論(06) 発達障害児の心と行動(06) 国際化と教育(03) ユング心理学(03) 日本経済史(03) 金融論(04) 近代の日本文学(05) 〔国語学概論(02)〕 〔発達障害児の心と行動(02)〕	法の世界(04) 心の健康と病理(04) 国際政治(04) 現代経済学(05) ギリシャ哲学(03) 韓国朝鮮の歴史と社会(04)
7 16:45 ~ 17:35	次世代育成を考える(03) 技術者倫理(04) 集団と環境の生物学(03) 国際共生と健康(04) 人工物と設計(04)	アジアの社会福祉(06) アグリビジネスと農業・農村(06) 物質・材料工学と社会(05) 幾何入門(04) 植物の生理(04) 〔変動する社会と暮らし(02)〕 〔アグリビジネス(02)〕		初歩からの微積分(06) 現代科学と医療(04) 障害者福祉論(05) 建築意匠論(04) 運動と力(05) 分子生物学(05) 〔初等微積分学(02)〕	心理学入門(06) 岐路に立つ大学(04) 国際関係法(06) 西洋政治思想史(05) 近代日本と国際社会(04) 〔心理学初歩(05)〕 〔国際関係法(02)〕		倫理思想の源流(05) 比較教育制度論(03) 発達障害の教育支援法(06) 現代の社会心理学(04) 行政法と市民(06) 国際経済学(05) 近代ヨーロッパ史(05) 〔障害児教育指導法(02)〕 〔市民生活と行政法(02)〕	哲学入門(04) 教育の哲学(03) 授業研究と談話分析(06) 商法(03) 紛争の社会学(04) ドイツ文学(03) 〔教育評価(03)〕
8 17:55 ~ 18:45	問題解決の発想と表現(04) 住まいの構造・構法(04) 児童家庭福祉(03) 複素数と関数(04) 相対論(04)	グローバル経営戦略(06) アジアの風土と服飾文化(04) がんの健康科学(06) バイオテクノロジーと社会(05) 物質の科学・有機構造解析(03) 細胞生物学(03) 〔比較技術の文明論(02)〕 〔社会福祉の国際比較(02)〕		線型代数入門(03) 基礎化学(06) 衣生活の科学(06) 経営学(03) 管理会計(06) 宇宙からの情報(05) 〔物質の世界 - 化学入門(02)〕 〔衣生活の科学(02)〕 〔管理会計(03)〕	神経心理学(06) 市民生活の財産法(06) 第三世界の政治(05) 博物館資料論(04) 〔感情と認知(03)〕 〔紛争と民法(02)〕		認知心理学概論(06) 発達障害教育論(06) 現代行政分析(04) ジェンダーの社会学(03) ドイツ観念論への招待(03) 〔人間科学の可能性(03)〕 〔障害児教育論(02)〕	経済学入門(04) 心理学史(05) 生徒指導(06) 児童の臨床心理(03) 日本政治史 - 20世紀の日本政治(03) 現代コミュニティ論(06) 日本文学における住まい(04) フランス文学(03) 〔コミュニティ論(02)〕

注：〔 〕の科目は、平成17年度末での閉講科目です。再試験者のみが受験対象となり、第2学期以降は実施しません。

平成18年度第2学期

学部単位認定試験時間割

曜日 時限	平成19年 1月28日(日)	1月29日(月)	平成19年 1月30日(火)	平成19年 1月31日(水)	平成19年 2月1日(木)	2月2日(金)	平成19年 2月3日(土)	平成19年 2月4日(日)
1 9:15 ~ 10:05	線型代数入門(03) 基礎化学(06) 衣生活の科学(06) 経営学(03) 管理会計(06) 宇宙からの情報(05)		問題解決の発想と表現(04) 住まいの構造・構法(04) 児童家庭福祉(03) 複素数と関数(04) 相対論(04)	グローバル経営戦略(06) アジアの風土と服飾文化(04) がんの健康科学(06) バイオテクノロジーと社会(05) 物質の科学・有機構造解析(03) 細胞生物学(03)	経済学入門(04) 心理学史(05) 生徒指導(06) 児童の臨床心理(03) 日本政治史 - 20世紀の日本政治(03) 現代コミュニティ論(06) 日本文学における住まい(04) フランス文学(03)		神経心理学(06) 市民生活の財産法(06) 第三世界の政治(05) 博物館資料論(04)	認知心理学概論(06) 発達障害教育論(06) 現代行政分析(04) ジェンダーの社会学(03) ドイツ観念論への招待(03)
2 10:25 ~ 11:15	人体の構造と機能(05) 計算科学(03) 地域福祉論(06) 人間活動の環境影響(05)		変化する地球環境(04) 実験科学とその方法(06) 生活の経済(04) マスメディア論(03) 物質の科学・量子化学(03)	現代社会におけるライフコース(03) 患者からみた医療(03) 経営工学総論(04) 流体的地球像(03)	政治学入門(03) 財政学(05) 日本の古典 - 散文編(06) 前近代の東南アジア(06) 芸術の理論と歴史(06)		統計学入門(04) 基礎発達心理学(06) 環境社会学(03) 仏教の思想(05) ヨーロッパの歴史(05) 博物館経営・情報論(04) イギリス文学(03)	現代思想の地平(05) 生涯学習と自己実現(06) 日本の古典 - 古代編(05) ドイツの言語文化(02) 自己を見つめる(02) 情報と社会(06)
3 11:35 ~ 12:25	疾病の成立と回復促進(05) 若者の科学離れを考える(04) 21世紀の女性と仕事(06) ネットワーク産業論(04) 天体物理学入門(03)		宇宙とその歴史(04) 東アジア・東南アジアの住文化(03) リハビリテーション(03) 産業と労使(03) 持続的発展と国際協力(03) 情報技術と社会(05) 量子力学(05)	物理の世界(03) 世界の食糧問題とフードシステム(03) 簿記入門(06) 都市システム工学(03) 多変数の微積分(03) 光と電磁場(05)	発達と教育の心理学的基盤(05) 子ども・青年の生活と発達(06) 欧米経済史(04) フィールド社会学心理学(04) 朱子学と陽明学(04) 中世日本の歴史(03) 演劇入門(06)		社会調査(05) カウンセリング概論(05) 経済法(04) 現代東アジアの政治(04) 応用音楽学と民族音楽学(04)	近代哲学の射程(03) 家庭・学校と地域社会(04) 学習科学とテクノロジー(03) 裁判の法と手続(04) ヨーロッパ政治史(05) 東アジアの中の中国史(03)
4 13:15 ~ 14:05	英語(03) ドイツ語入門(06) フランス語入門(06) ロシア語入門(05) 韓国語入門(06) 日本語(03) - 外国語としての - 保健体育(05) 在宅看護論(04)	休	宇宙像の変遷と科学(04) 脳科学の進歩(06) 会計学(04) 日本の製造業の新展開(05) 計算力学(04) 数理モデルとカオス(05) 生命と金属の世界(05)	確率・統計の基礎(05) 都市と人間(03) 企業ファイナンス入門(04) 統計学とその応用(05) 動物の行動と生態(04)	生命と人生の倫理(05) 表象としての日本(04) 教育の社会文化史(04) 幼児の教育と保育(04) 産業社会と消費社会の現代(03) 自我の社会学(05) 日本の古典 - 江戸文学編(06) 近世日本の歴史(03)	休	英語(03) 英語中級B(06) 英語総合A(05) ドイツ語入門(06) フランス語基礎(06) 中国語入門(05) 韓国語入門(06)	著作権法概論(06) 近代詩歌の歴史(04) 教育の方法(04) 応用心理学(05) 比較政治学(04) 科学の哲学(04) 博物館概論(03) 中国の言語文化(02)
5 14:25 ~ 15:15	英語(03) フランス語入門(06) 中国語入門(05) スペイン語(03) 日本語基礎A(06) 基礎看護学(04)	日	基礎生物学(03) 使える数理リテラシー(03) 公衆衛生(05) エネルギー工学と社会(06)	国際経営論(05) 生物学の歴史(05) 日本の食文化(04) 生活の動態と経営(05) マーケティング論(04) 進化する宇宙(05)	東アジアのなかの日本文化(05) 計量心理学(06) スクールカウンセリング(05) 中央アジアの歴史・社会・文化(04) 文化人類学(04)	日	英語基礎A(05) ドイツ語基礎(06) 中国語(04) ロシア語入門(05) スペイン語(03) 初歩のアラビア語(06)	21世紀の社会学(05) 世界の産業再編成(04) 臨床心理学概論(03) 日本政治思想史(05) 上代の日本文学(04) 古代地中海世界の歴史(04) 20世紀の中国文学(05)
6 15:35 ~ 16:25	看護学概論(05) 高齢者福祉論(03) イノベーション経営(05) 数学とコンピュータ(06) 物質の科学・反応と物性(04)		数学の歴史(03) 中小企業の挑戦(03) 感染症と生体防御(04) ベンチャー企業論(05) 現象の数理(03) 日本列島の地球科学(03)	人口減少社会の生活像(06) 科学・技術と社会(03) 日本法文化の形成(03) 食品の安全性を考える(04) 暮らしの防犯と防災(06) 情報産業論(04) 物質の科学・有機化学(06)	心の科学(04) 国文学入門(04) 学習科学(04) 道徳教育論(05) 都市社会の人間関係(04) 書誌学(03) アメリカの歴史(04) 西洋音楽の諸問題(05)		人文地理学(04) 日本国憲法(05) 近代的教育思想(03) 心理臨床の世界(03) ヘーゲルを読む(03) 日本の古代(05) 中世日本の物語と絵画(04)	近代日本における外国文学の受容(03) 教育社会学(03) 心理学研究法(03) 刑法(05) 現代日本の政治(03) 芸術・文化・社会(06)
7 16:45 ~ 17:35	身体福祉論(03) 食と健康(06) 線型代数学(04) 物性物理学入門(04) 公的扶助(02)		ゲノム生物学(03) 家族のストレスとサポート(04) 光電子技術とIT社会(04) 数学基礎論(03) エネルギーと熱(03) 生物界の変遷(06)	社会福祉入門(04) 物質の科学と先端技術(04) 服飾と心理(05) 社会保険と市民生活(04) 人間と自然(03)	法の世界(04) 心の健康と病理(04) 国際政治(04) 現代経済学(05) ギリシャ哲学(03) 韓国朝鮮の歴史と社会(04)		アーツ・マネジメント(06) 人格心理学(04) 現象学の基礎(04) 日本語の歴史(05) 考古学と歴史(04)	日本語学概論(06) 発達障害児の心と行動(06) 国際化と教育(03) ユング心理学(03) 日本経済史(03) 金融論(04) 近代の日本文学(05)
8 17:55 ~ 18:45	初歩からの微積分(06) 現代科学と医療(04) 障害者福祉論(05) 建築意匠論(04) 運動と力(05) 分子生物学(05)		次世代育成を考える(03) 技術者倫理(04) 集団と環境の生物学(03) 国際共生と健康(04) 人工物と設計(04)	アジアの社会福祉(06) アグリビジネスと農業・農村(06) 物質・材料工学と社会(05) 幾何入門(04) 植物の生理(04)	哲学入門(04) 教育の哲学(03) 授業研究と談話分析(06) 商法(03) 紛争の社会学(04) ドイツ文学(03)		心理学入門(06) 岐路に立つ大学(04) 国際関係法(06) 西洋政治思想史(05) 近代日本と国際社会(04)	倫理思想の源流(05) 比較教育制度論(03) 発達障害の教育支援法(06) 現代の社会学心理学(04) 行政法と市民(06) 国際経済学(05) 近代ヨーロッパ史(05)

平成18年度大学院単位認定試験時間割

(第1学期)

(第2学期)

曜日 時限	平成18年7月30日(日)	平成18年8月1日(火)
1 9:15 } 10:05	総合情報学(06) 情報システム科学(06) 芸術文化政策(02) 生涯学習論(06) 〔総合情報学(02)〕 〔情報システム科学(02)〕 〔生涯学習論(02)〕	地域文化研究(02) 生命環境科学(05) 都市デザイン論(06) 学校臨床心理学(05) 〔都市計画論(02)〕
2 10:25 } 11:15	総合人間学(06) 複雑システム科学(02) 福祉政策(06) 人間情報科学とeラーニング(06) 〔総合人間学(02)〕 〔福祉政策(02)〕 〔情報教育論(02)〕	比較文化研究(05) 健康科学(05) 経営システム(06) 社会心理学特論(05) 〔経営システム(02)〕
3 11:35 } 12:25	言語文化研究(02) 物質環境科学(05) 福祉政策(06) 才能教育論(06) 〔福祉政策(02)〕 〔才能教育論(02)〕	日本文化研究(05) 経営システム(05) 教育経営論(04) 家族心理学特論(06) 〔家族心理学特論(02)〕
4 13:15 } 14:05	文化人類学研究(05) 地球環境科学(05) 逸脱行動論(06) 〔法システム(02)〕 〔逸脱行動論(02)〕	言語文化研究(05) 経済政策(05) 学校システム論(02) 精神医学(06) 〔精神医学(02)〕
5 14:25 } 15:15	表象文化研究(06) 教育文化論(05) 臨床心理学特論(05) 〔表象文化研究(02)〕	EU論(06) 地方自治政策(05) 教育課程編成論(06) 認知行動科学(06) 〔国際関係論(02)〕 〔教育課程編成論(02)〕 〔認知行動科学(02)〕
6 15:35 } 16:25	国際社会研究(05) 生命環境科学(06) 法システム(06) 学校臨床社会学(03) 臨床心理面接特論(02) 〔生命環境科学(02)〕 〔法システム(02)〕	情報化社会研究(05) 物質環境科学(03) 経済政策(05) 認知過程研究(02)
7 16:45 } 17:35	地域文化研究(06) 技術社会関係論(04) 道徳性形成論(03) 臨床心理学研究法特論(06) 〔地域文化研究(02)〕 〔心理学研究法特論(02)〕	国際社会研究(02) 生活科学(05) 地方自治政策(04) 環境工学(03) 教授・学習過程論(06) 〔教授・学習過程論(02)〕
8 17:55 } 18:45	地域文化研究(06) 生活科学(06) 環境マネジメント(06) 発達心理学(02) 〔地域文化研究(02)〕 〔生活科学(02)〕 〔環境マネジメント(02)〕	言語文化研究(05) 数理システム科学(05) 芸術文化政策(02) 現代身体教育論(06) コミュニティ・アプローチ特論(03) 〔現代身体教育論(02)〕

曜日 時限	平成19年1月26日(金)	平成19年1月27日(土)
1 9:15 } 10:05	地域文化研究(06) 生活科学(06) 環境マネジメント(06) 発達心理学(02)	言語文化研究(05) 数理システム科学(05) 芸術文化政策(02) 現代身体教育論(06) コミュニティ・アプローチ特論(03)
2 10:25 } 11:15	総合情報学(06) 情報システム科学(06) 芸術文化政策(02) 生涯学習論(06)	地域文化研究(02) 生命環境科学(05) 都市デザイン論(06) 学校臨床心理学(05)
3 11:35 } 12:25	総合人間学(06) 複雑システム科学(02) 福祉政策(06) 人間情報科学とeラーニング(06)	比較文化研究(05) 健康科学(05) 経営システム(06) 社会心理学特論(05)
4 13:15 } 14:05	言語文化研究(02) 物質環境科学(05) 福祉政策(06) 才能教育論(06)	日本文化研究(05) 経営システム(05) 教育経営論(04) 家族心理学特論(06)
5 14:25 } 15:15	文化人類学研究(05) 地球環境科学(05) 法システム(06) 逸脱行動論(06)	言語文化研究(05) 経済政策(05) 学校システム論(02) 精神医学(06)
6 15:35 } 16:25	表象文化研究(06) 教育文化論(05) 臨床心理学特論(05)	EU論(06) 地方自治政策(05) 教育課程編成論(06) 認知行動科学(06)
7 16:45 } 17:35	国際社会研究(05) 生命環境科学(06) 法システム(06) 学校臨床社会学(03) 臨床心理面接特論(02)	情報化社会研究(05) 物質環境科学(03) 経済政策(05) 認知過程研究(02)
8 17:55 } 18:45	地域文化研究(06) 技術社会関係論(04) 道徳性形成論(03) 臨床心理学研究法特論(06)	国際社会研究(02) 生活科学(05) 地方自治政策(04) 環境工学(03) 教授・学習過程論(06)

平成18年度学部開設

・改訂科目一覧

専攻等	科目名	単位数	メディア	主任講師	現職等
人文系	心理学入門(06)	2	TV	星 薫 山口 勤 青木 紀久代	放送大学助教授 東京大学大学院教授 お茶の水女子大学大学院助教授
	認知心理学概論(06)	2	TV	波多野 誼余夫 高野 陽太郎	放送大学教授 東京大学大学院教授
	日本語学概説(06)	2	R	杉浦 克己	放送大学助教授
社会系	グローバル経営戦略(06)	2	R	吉森 賢	放送大学教授
自然系	初歩からの微積分(06)	2	TV	熊原 啓作 押川 元重	放送大学教授 放送大学特任教授
	基礎化学(06)	2	TV	濱田 嘉昭 萩野 博 渡部 徳子	放送大学教授 放送大学教授 青山学院女子短期大学教授
	実験科学とその方法(06)	2	TV	濱田 嘉昭 菊山 宗弘	放送大学教授 新潟大学教授
共通科目	英語中級B(06)	2	TV	内野 儀 河合 祥一郎 大石 和欣	東京大学大学院助教授 東京大学大学院助教授 放送大学助教授
	ドイツ語入門I(06)	2	TV	鍛冶 哲郎 識名 章喜	東京大学大学院教授 慶應義塾大学教授
	ドイツ語入門II(06)	2	R	鍛冶 哲郎 識名 章喜	東京大学大学院教授 慶應義塾大学教授
	ドイツ語基礎(06)	2	R	保坂 一夫	日本大学教授
	フランス語入門I(06)	2	TV	鈴木 啓二 原 和之 オディール・デュシッド	東京大学大学院教授 東京大学大学院助教授 早稲田大学助教授
	フランス語入門II(06)	2	R	工藤 庸子 原 和之 山上 浩嗣	放送大学教授 東京大学大学院助教授 関西学院大学助教授
	フランス語基礎(06)	2	R	工藤 庸子 ヴァセルマン エストレリタ	放送大学教授 東京大学外国人教師
	韓国語入門(06)	2	TV	生越 直樹 根本 理恵	東京大学大学院教授 東京大学非常勤講師
	韓国語入門(06)	2	R	生越 直樹 根本 理恵	東京大学大学院教授 東京大学非常勤講師
	日本語基礎A(06)	2	TV	姫野 昌子 伊東 祐郎	放送大学教授 東京外国語大学教授
	初歩のアラビア語(06)	2	TV	鷲見 朗子	京都ノートルダム女子大学助教授
	科目主題	情報と社会(06)	2	TV	柏倉 康夫 林 敏彦 天川 晃
人口減少社会の生活像(06)		2	R	宮本 みち子	放送大学教授
衣生活の科学(06)		2	R	藤原 康晴	放送大学教授
専門科目	食と健康(06)	2	TV	中谷 延二 清水 誠 小城 勝相	放送大学教授 東京大学大学院教授 奈良女子大学教授
	暮らしの防犯と防災(06)	2	TV	清永 賢二 大野 隆造	日本女子大学教授 東京工業大学大学院教授
	脳科学の進歩(06)	2	TV	田中 啓治 岡本 仁	理化学研究所領域ディレクター 理化学研究所グループディレクター
	がんの健康科学(06)	2	TV	多田 羅 浩三 門田 守人 杉山 治夫	放送大学教授 大阪大学大学院教授 大阪大学大学院教授
	地域福祉論(06)	2	R	牧里 毎治	関西学院大学教授
	アジアの社会福祉(06)	2	R	萩原 康生	大正大学教授

専攻等	科目名	単位数	メディア	主任講師	現職等
発達と教育	計量心理学(06)	2	TV	西川 泰夫 沼野 元義 大澤 光	放送大学教授 英知大学教授 首都大学東京教授
	基礎発達心理学(06)	2	R	氏家 達夫 陳 省仁	名古屋大学教授 北海道大学教授
	神経心理学(06)	2	R	八木 文雄	高知大学教授
	子ども・青年の生活と発達(06)	2	TV	藤崎 春代 武内 清	帝京大学教授 上智大学教授
	生涯学習と自己実現(06)	2	R	堀 薫夫 三輪 建二	大阪教育大学教授 お茶の水女子大学教授
	発達障害教育論(06)	2	R	大南 英明 緒方 明子	帝京大学教授 明治学院大学教授
	発達障害の教育支援法(06)	2	TV	太田 俊己 宮崎 英憲 中坪 晃一	千葉大学教授 東洋大学教授 植草学園短期大学教授
	生徒指導(06)	2	TV	新井 郁男 住田 正樹 岡崎 友典	放送大学教授 放送大学教授 放送大学助教授
	授業研究と談話分析(06)	2	R	秋田 喜代美	東京大学大学院教授
	発達障害児の心と行動(06)	2	TV	太田 昌孝	東京学芸大学教授
	市民生活の財産法(06)	2	TV	野村 豊弘	学習院大学教授
	社会と経済	行政法と市民(06)	2	R	稲葉 馨
国際関係法(06)		2	R	横田 洋三	中央大学法科大学院教授
著作権法概論(06)		2	R	作花 文雄 吉田 大輔	内閣法制局参事官 文部科学省人事課長
現代コミュニティ論(06)		2	TV	船津 衛 浅川 達人	放送大学教授 放送大学助教授
21世紀の女性と仕事(06)		2	TV	大沢 真知子 原田 順子	日本女子大学教授 放送大学助教授
管理会計(06)		2	R	佐藤 紘光 齋藤 正章	早稲田大学教授 放送大学助教授
簿記入門(06)		2	R	齋藤 正章	放送大学助教授
アーツ・マネジメント(06)		2	TV	清水 裕之 菊池 誠	名古屋大学大学院教授 元東京大学客員教授
アグリビジネスと農業・農村(06)		2	R	稲本 志良 桂 瑛一	龍谷大学教授 信州大学名誉教授
エネルギー工学と社会(06)		2	TV	河合 明宣 内山 洋司	放送大学助教授 筑波大学大学院教授
日本語基礎A(06)		2	TV	姫野 昌子 伊東 祐郎	放送大学教授 東京外国語大学教授
人間の探究		日本の古典・散文編(06)	2	R	三角 洋一 松尾 葦江 島内 裕子
	日本の古典・江戸文学編(06)	2	R	掲斐 高 鈴木 健一	成蹊大学教授 学習院大学教授
	前近代の東南アジア(06)	2	R	桜井 由躬雄	東京大学大学院教授
	芸術の理論と歴史(06)	2	TV	青山 昌文	放送大学助教授
	芸術・文化・社会(06)	2	TV	徳丸 吉彦 青山 昌文	放送大学教授 放送大学助教授
	演劇入門(06)	2	TV	渡辺 保	放送大学教授
	数学とコンピュータ(06)	2	TV	長岡 亮介 岡本 久	放送大学教授 京都大学教授
	物質の科学・有機化学(06)	2	TV	太田 博道	慶應義塾大学教授
	生物界の変遷(06)	2	TV	松本 忠夫 西田 治文 二河 成男	放送大学教授 中央大学教授 放送大学助教授

平成18年度大学院開設

(第1学期)

プログラム等	科目名	単位数	メディア	主任講師	現職等
総合文化プログラム	総合情報学(06)	2	TV	中島 尚正	産業技術総合研究所理事
				原島 博	東京大学大学院教授
				佐倉 統	東京大学大学院助教授
	総合人間学(06)	2	R	柏原 啓一	放送大学教授
	表象文化研究(06)	2	TV	渡辺 保	放送大学教授
				小林 康夫	東京大学大学院教授
				石田 英敬	東京大学大学院教授
	地域文化研究I(06)	2	R	木村 靖二	大学評価・学位授与機構教授
				近藤 和彦	東京大学大学院教授
	地域文化研究II(06)	2	R	川勝 守	大正大学教授
吉田 光男				東京大学大学院教授	
EU論(06)	2	TV	浜口 允子	放送大学教授	
			柏倉 康夫	放送大学副学長	
			植田 隆子	国際基督教大学大学院教授	
環境システム科学群	情報システム科学(06)	2	R	小川 英治	一橋大学大学院教授
				長岡 亮介	放送大学教授
	生命環境科学II(06)	2	TV	平尾 淳一	大東文化大学教授
				石川 統	放送大学教授
	認知行動科学(06)	2	TV	二河 成男	放送大学助教授
				西川 泰夫	放送大学教授
	生活科学II(06)	2	TV	本間 博文	放送大学教授
				小林 秀樹	千葉大学教授
				藤本 信義	宇都宮大学教授
	精神医学(06)	2	R	仙波 純一	放送大学教授
石丸 昌彦				桜美林大学教授	
政策経営プログラム	経営システム(06)	2	R	佐々木 弘	放送大学教授
				山田 幸三	上智大学教授
	福祉政策(06)	2	R	大森 彌	東京大学名誉教授
				松村 祥子	放送大学教授
	福祉政策(06)	2	R	武川 正吾	東京大学大学院教授
				大曾根 寛	放送大学教授
法システム(06)	2	R	宇賀 克也	東京大学大学院教授	
			長谷部 恭男	東京大学大学院教授	
環境マネジメント(06)	2	TV	山口 光恒	帝京大学教授	
都市デザイン論(06)	2	TV	香山 壽夫	放送大学教授	

注) は総合文化プログラム(環境システム科学群)と臨床心理プログラムに共通する科目

・改訂科目一覧

プログラム等	科目名	単位数	メディア	主任講師	現職等
教育開発プログラム	教育課程編成論(06)	2	R	安彦 忠彦	早稲田大学教授
	教授・学習過程論(06)	2	TV	波多野 誼余夫	放送大学教授
				大島 純	静岡大学助教授
	現代身体教育論(06)	2	R	武藤 芳照	東京大学大学院教授
				衛藤 隆	東京大学大学院教授
				山本 義春	東京大学大学院教授
	生涯学習論(06)	2	R	岩永 雅也	放送大学教授
	人間情報科学とeラーニング(06)	2	TV	野嶋 栄一郎	早稲田大学教授
				鈴木 克明	岩手県立大学教授
				吉田 文	メディア教育開発センター教授
才能教育論(06)	2	TV	宮下 充正	放送大学教授	
			大築 立志	東京大学大学院教授	
逸脱行動論(06)	2	TV	鮎川 潤	関西学院大学教授	
臨床心理プログラム	臨床心理学研究法特論(06)	2	R	齋藤 高雅	放送大学教授
	認知行動科学(06)	2	TV	西川 泰夫	放送大学教授
	家族心理学特論(06)	2	R	横山 知行	新潟大学教授
				佐藤 仁美	放送大学助教授
	精神医学(06)	2	R	仙波 純一	放送大学教授
石丸 昌彦	桜美林大学教授				

(第2学期)

プログラム等	科目名	単位数	メディア	主任講師	現職等
政経プログラム	法システム(06)	2	R	中嶋 士元也	放送大学教授
町野 朔				上智大学大学院教授	
野村 豊弘				学習院大学教授	

大阪学習センター

ひとに出会える学びの場

大阪学習センターは学生数約4000人の大きなセンターです。視聴学習室には、放送授業自習用にTVモニター75台と録音再生機55台があり、いつも賑わっています。センターには専門分野の異なる9人の客員教員が、学習相談や、勉強会をしています。「映画に学ぶ中級英語」、「医療勉強会」、「日本経済の四方山話」、「源氏物語を楽しむ」などをはじめ、色々な面接授業が企画されています。多数の受講希望者がいるため、多くの不許可者を出しており、苦慮しています。今年の1学期には大阪発祥の伝統芸術である「文楽」を劇場で鑑賞



するというユニークな面接授業があり、近畿圏外の多くの方々も参加され、楽しんで

大阪学習センター所長 西原 浩

だきました。

当センターの卒業研究履修者は毎年20名強ですが、年々希望者が増加しています。その支援の一環として、毎年5月ごろに学部生のための「卒業研究履修者の集い」及び「大学院修士全学生の集い」を開催し、修了者からの苦労話を聴いたり、お互いの情報交換をしたりして、励ましあっています。これをきっかけに学生主導の「修士論文ワークショップ」も立ち上がっています。

サークルが21もあり、熱心な学びを通して出会いを楽しんでおられます。英語サークルはネイティブの先生指導の勉強、中国語サークルは毎年1回中国へ旅行を企画、などなど。また通信指導問題の提出間際には、科目ごとにグループ学習のお世話をしてくれるサークルもあり、好評です。同窓会の活動の一つとして、卒業生の祝賀会を企画してくれており、有難いことです。

当センターのホームページに是非アクセスしてみてください。

<http://www.uair-osaka.jp/>

神奈川学習センター

いつも賑わうフェスタ・ヨコハマ

神奈川学習センターは、多くの独自の活動を行っています。第一は、インターネットにホームページを設けて、さまざまな情報を提供していることです。道案内から始まって、お知らせメルマガ、利用、行事、サークル紹介など最新の情報が得られます。

第二に、そのサークルのすべてが共催するフェスタ・ヨコハマというお祭りがユニークです。今年は8月27、28日に開催されましたが、19年も続いているセンターの名物です。今年もたいへん盛大であり、240人ほどが参加しました。27日には囲碁、将棋、俳句、川柳の大会があり、28日の午前中は講演で、今年は島内裕子先生に「徒然草」についてお話を戴きました。

午後は大いに盛り上がるお祭りで、ビールで乾杯してレクサークルのダンスから始まりますが、ダンスを見る人、話に夢中になる人、稲荷ずし、焼きそばなどもっばら食べている人とさまざまです。やがてジャンケンサッカーという珍妙なゲー

神奈川学習センター所長 森谷 正規

ムが始まって、所長の私も引っ張り出されました。その後、ピンゴゲームがあり、最後は俳句、川柳、囲碁、将棋の表彰です。

第三は、センター同窓会主催の卒業記念パーティーで、10月2日の卒業式の後で、賑やかに開かれました。卒業生たちは飲んで食べて、楽しいあるいは辛い思い出を語り、多くの人が再入学しようと言ってくれました。このように神奈川学習センターは、学生の皆さんが楽しく学べる場になっています。 <http://www.u-air.net/kanagawa/>



消費者も生活用品の品質評価を

生活と福祉 教授 藤原 康晴
総合文化プログラム環境システム科学群



生活用品の品質基準は製造業者や流通業者によって明確に定められていますが、それを購入する消費者自身が考える品質基準はあいまいです。生活用品は多種多様であり、さらに、ある特定の用品を取り上げても非常に多くのものが市販されています。最近では製造技術が向上して、衣服を含め、生活用品について

は粗悪な品質のものが少なくなったこともあって、生活用品の選択に当たって、消費者はその品質にあまり注目することなく、価格のみに鋭敏になっている傾向にあります。消費者のこうした購入形態は、店舗や通信販売による財(商品)の購入の場合には、短期間の使用で廃棄をもたらしたり、教育や旅行などのサービスの購入の場合などにおいては、消費者とのトラブルとして取り上げられるような事態を招きがちです。

消費者が生活用品の品質の評価基準を確立するには、その用品を構成する素材や機能につい

て科学的な見方が必要です。生活用品の科学的な視点からの品質評価は、その用品の合理的な使用だけでなく、使用後の廃棄についても適切に判断できることにつながっています。この科学的な品質評価は、資源や環境問題に関しても総合的な観点から考える消費者の基本的態度を形成すると考えています。そして、環境にかかわる因子もその生活用品の品質評価基準に加える消費者、そう期待される消費者を育成するための学校教育や生涯教育の教材開発についても、その方策を探っています。

専門の垣根を越えて

社会と経済 教授 高木 保興
総合文化プログラム文化情報科学群



途上国問題を研究しているうちに、徐々に経済学から離れ始めた。経済は社会に大きな影響を及ぼすにもかかわらず、どのような社会が望ましいかに関しては、多くの経済学者は議論しようとしな。効率性や成長を追求していくと社会はどうなっていくのか。興味が起こらないのだろうか。

途上国では一つの経済政策が

社会を大きく変容させることが珍しくはない。その変容が森林破壊や暴動の原因になれば、社会に及ぼす影響まで議論しないと無責任な政策提言になりかねない。

とは言っても、社会のあり方を正面から議論することは容易ではない。歴史、文化、風俗、伝統など様々な要素が複雑に融合・交錯して社会が形成されているので、どのような議論を展開しても考察が相対的に不足する分野からの批判は免れることができないからである。しかし重要なことは、現実に行えるだけ適した政策提言をすることで

あって、各分野の専門家を満足させることではない。これまでの経済学、社会学、政治学などの高い垣根を越えれば侵入者に対する批判は大きく、越境者を守ってくれる仲間も期待できないかもしれない。それでも、その方面に興味を持ちかけたら、進んでみるしかない。そろそろ、日本にも、専門の垣根を低くして、社会にとって重要な問題を各分野から議論し、それぞれの長所を活かす「学融合」の試みが積極的に展開される時期に来ているように思える。

理事長退任のあはつ



このたび任期満了により、放送大学学園理事長を退任いたしました。

放送大学は、今や全国で約10万人もの方々が学生として学び、これまでに3万7千人余の学部卒業生と721名の修士修了生を送り出すなど、生涯学習の中核的機関として大きく成長しました。

私が理事長を務めたこの8年

余りの間は、放送大学が国民の皆様にとってより身近で存在感のある大学であるための多くの改革が実現された時期であり、感慨深いものがあります。

特に、主として関東エリアだけであった放送対象地域が平成10年1月からCSデジタル放送により全国化され、また、全都道府県に学習センターが設置され、全国の身近な場所で学習いただけるようになりました。さらに、大学院文化科学研究科を開設し、高度で専門的な学習の機会を提供することができるようになりました。また、平成15年10月に特殊法人から新しい放送大学学園法に基づき、特別な学校法人に移行しましたが、放送大学の教育システムについて

前放送大学学園理事長 井上 孝美

はまったく異なることがないような措置を講じました。

私は文部省時代、放送大学学園法の成立と放送大学学園の発足を直接担当するなど文部行政の折にふれ、本学園と関わりを持ってまいりましたが、この変革期に本学園の責任者としてこのような設置構想以来の目標の実現に携わることができましたことに大きな喜びを感じ、この間の関係の皆様方の御尽力、御理解と御支援に心から感謝を申し上げます。

これからも放送大学学園を支援させていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

理事長就任のあはつ



10月1日付けで放送大学学園の理事長に就任いたしました。

テレビ・ラジオを活用して、大学教育の機会を広く国民の皆様に提供することを目的として創設された放送大学も昭和60年の学生受け入れ開始から既に21年目を迎えております。

この間、放送大学では、全国

すべての地域で全科履修生を受け入れるための全国化の実現や大学院の新設などの課題に積極的に取り組み、現在約10万人もの学生が学ぶ大学に成長しております。放送大学が我が国の生涯学習や高等教育において果たす役割の大きさと責任の重さを痛感しております。

「情報化社会」や「知識社会」の到来とともに、国民の学習ニーズや学習環境も変化し、一層多様になってきています。放送大学もこのような変化に的確に対応し、カリキュラムや教育の内容を不断に見直していくことが急務となっております。

また、平成18年12月から地上

放送大学学園理事長 御手洗 康

デジタル放送を開始することとなっておりますが、これを円滑に実施し、効果的に活用していくとともに、インターネットなどの情報通信技術の進展も踏まえて、教育の充実や学生サービスの向上など学習環境の整備に努めてまいりたいと思っております。

放送大学が国民のための生涯学習機関として、より身近で親しみやすい大学となり、より多くの国民の皆様方に学習していただけるよう、教職員一丸となって取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御支援をお願い申し上げます。

本学の印刷教材が第22回田邊尚雄賞を受賞 「応用音楽学と民族音楽学」

「人間の探究」専門科目の「応用音楽学と民族音楽学（04）」（主任講師：山口修放送大学客員教授、大阪大学名誉教授）の印刷教材が、10月1日に開催された社団法人東洋音楽学会第57回大会において第22回田邊尚雄賞を受賞いたしました。

田邊尚雄賞は、日本音楽研究・民族音楽学研究の優れた業績に対して毎年授与されるもので、日本



山口客員教授の代理として賞状を受ける徳丸教授(右)

音楽研究の分野では随一、民族音楽学研究の分野では「小泉文夫賞」と並んで最も権威ある賞の一つで、過去には、徳丸吉彦教授（放送大学教授）が平成4年に第9回田邊賞を受賞しています。

「応用音楽学と民族音楽学」の受賞理由は、応用音楽学という新しい分野を開拓し、既存の分野との関連を明らかにした画期的な業績であることにあります。

本来、学術書として刊行された研究書が対象となることが多い中で、大学の教材が受賞すること自体が極めて異例なことであり、山口先生の印刷教材が優れた学術書であることは勿論のこと、放送大学の授業科目が広く学界に認められたことを意味するもので、放送



山口修 客員教授

大学学園にとっても極めて榮譽あることです。

この科目は、音楽と社会の関連を「社会から学び社会に貢献」する未来指向の立場から研究する「応用音楽学」と、諸民族の相互に異なる価値観から生まれた音楽をもとに普遍性を探る「民族音楽学」という二つの次元から音楽知を駆使する方法を探ったものであり、あわせて世界の音楽と楽器を知ることができる内容となっています。

第19回アジア公開大学連合(AAOU)年次会議について

第19回アジア公開大学連合(AAOU)年次会議が2005年9月15日(木)から9月17日(土)まで、インドネシアのテルブカ大学の主催でミレニアムホテル(ジャカルタ)を主な会場として開催された。本学から丹保憲仁学長、河合明宣助教授、原田順子助教授が出席した。

会議テーマは、' Building Knowledge-Based Society through Open and Distance Education ' (公開遠隔教育を通じた知識社会

の構築)であった。多くの発表者に共通することは国家の成長・発展に国民の教育が不可欠であるという視点である。AAOU参加国のほとんどが発展途上国であることから、貧しい人々に対する教育の普及の重要性が、繰り返し述べられた。その手段としてのe-Learningの有効性が、多くの場面で議論された。教育の配信単価が安く、離島などの遠隔地でも利用可能であることから、たとえインターネットやコンピュータの普

及が遅れていたとしても、すでに多くの国においてe-learningは今後の発展性の高い教育手段と認められているようである。特に、free software(アクセス無料)は低所得国・低所得層に対する教育の普及に効果的であり、その開発の重要性は、英連邦学習会(Commonwealth of Learning)の会長兼CEOであるSir John Danielの基調講演でも指摘された。(産業と技術 河合明宣 助教授)(産業と技術 原田順子 助教授)

本学の学生団体がインドネシアの大学等を訪問

本学の学生団体「うえるかむ」は、インドネシアのテルブカ大学から21周年記念祭に招かれて、埼玉学習センター所属の増岡会長をはじめとして、神奈川学習センターなどから8名の会員が9月初旬にジャカルタを訪れた。創立記念祭は、第19回アジア公開大学連合(AAOU)年次会議開催に先立ち、9月5日に催され、式典ではテルブカ大学学長の挨拶に続き、「うえるかむ」メンバーによる舞や盆踊

りが披露され、当地の学生たちの催し物に彩りを添えた。式典終了後、テルブカ大学のジャカルタ支部で学生間相互交流を行い親交を深めた。9月6日には、スラバヤにあるIALF語学学校を訪問して日本文化を紹介し、さらにジャワの学園都市モランにあるモスリム大学では、授業に参加した。今回の学生間相互交流は、大変ハードなスケジュールではあったが、参加された学生にとって得るものも大

きな旅となった。(社会と経済 坂井素思 助教授)



学長のATWI SUPARMAN(右)

教務のお知らせ

学生募集 教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生

放送大学教養学部・大学院文化科学研究科では、平成18年度第1学期の学生募集を以下のとおり行います。

- 平成17年11月15日(火)・・・学生募集要項配布開始
- 平成17年12月15日(木)
～平成18年2月28日(火)・・・出願受付(教養学部学生、修士選科生・修士科目生)
- 2月上旬～3月中旬・・・合格通知等
- 2月上旬～3月31日(金)・・・学費の納入
- 2月中旬～4月中旬・・・入学許可通知・印刷教材等の配送
- 4月1日(土)・・・平成18年度第1学期授業開始

- ・放送大学は、平成18年4月1日から始まる新学期の学生募集を行います。
- ・募集要項(出願書類を含む)は、各地の学習センター、大学本部などで直接配布しているほか、郵送(ハガキ)や放送大学のホームページからも請求できますので、ご利用ください。

募集要項・送料は無料です

- ・この機会に放送大学に関心をお持ちのご友人、ご親戚他お知り合いの方にご紹介いただき、入学をお薦めくださいますようお願いいたします。また、平成18年3月末で学籍の切れる方が、平成18年度第1学期以降も引き続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要です。なお、その際は入学料が割引になります。

修士の学位取得を目指す「大学院修士全科生」の学生募集(年1回)は終了しました。

出願締切日は平成18年2月28日(火) <必着>です。

募集要項請求専用フリーダイヤル 0120-864-600

平成18年度第1学期の科目登録申請について

次学期も引き続き学籍のある在学学生を対象に「平成18年度第1学期科目登録申請要項」を1月上旬に送付します。

平成18年度第1学期の放送授業及び面接授業(毎週型・土日型)の科目登録申請期間は次のとおりです。

申請期間

平成18年1月27日(金)[消印]～平成18年2月10日(金) [必着]

1月中旬になっても科目登録申請要項が未着の場合、あるいは紛失した場合は、大学本部もしくは各学習センターにお問い合わせください。
詳しくは「学生生活の栞」をご覧ください。

平成17年度第2学期面接授業 集中型 の追加科目登録

2月に行われる第2学期面接授業(集中型)について、空席がある科目は追加科目登録をすることができます。登録日程等下記をご確認いただき、どうぞこの機会に面接授業にご参加ください。

空席発表日：平成17年12月24日(土)
登録受付期間：平成18年1月7日(土)～1月12日(木)
空席のある全てのクラスが登録受付対象となります。

空席状況(追加登録の対象科目)は、発表日以降大学ホームページ(<http://www.u-air.ac.jp>)各学習センターに掲示してお知らせします。受講したい科目を確認の上、登録受付期間内に、当該科目を開設する学習センター・サテライトスペースの窓口にご確認ください。

登録の際は必ず、学生証(コピーは不可)と授業料をご持参ください。
登録受付の方法等、詳しくは当該科目を開設する学習センター、サテライトスペースへお問い合わせください。

平成17年度放送大学学位記授与式について

平成17年度学位記授与式の日程が次のとおり決まりましたので、お知らせします。

日時：平成18年3月11日(土) 午前11時00分から

場所：幕張メッセ イベントホール(千葉県千葉市美浜区中瀬2-1)

なお、宿泊についてはJT B団体旅行千葉支店でも取り扱っています。
詳細は、JT B団体旅行千葉支店のホームページの「放送大学学位記授与式」の項目をご覧ください。
<http://www.jtb.co.jp/shop/danchiba/>

編集後記

情報通信技術の発達は、大量通信から双方向通信へ向かっているようである。本学の主たる学習手段である放送や本紙のような印刷物は、大量伝達手段ではあるが片方向的である。しかし時代遅れではない。大量・片方向の情報伝達の利点は改めて述べるまでもないであろう。大切なのはむしろ、求められる情報が的確に送られるか否かである。今号では、本紙に求められる情報は何なのかを探るために行った、アンケートの結果を掲載した。ご協力いただいた読者の皆さんに改めて御礼申し上げるとともに、今後の紙面に活かし、更に共に、これからも常に、求められる情報、その適切な提供方法に敏感な編集を志したいと決意を新たにしています。(杉浦克己)

大学通信専門委員会

(平成17年度)

委員長	教授	杉本大一郎
副委員長	同	徳丸吉彦
委員	同	中谷延二
〃	同	滝口俊子
〃	助教授	高橋和夫
〃	同	齋藤正章
〃	同	杉浦克己
〃	同	大橋理枝
〃	同	吉岡一男

(編集事務担当
教務部学生サービス課)

ご意見やご感想をお聞かせ下さい。
editor@u-air.ac.jp



放送大学学園

<http://www.u-air.ac.jp>

ISSN 1343-3369

R100